

校長の自慢 『教室に花』

「花と緑の西淀川高校」本校のキャッチフレーズです。その名の通り校内には100個以上のプランターが色とりどりの花を咲かせています。地植えの梅、桜、皐月、紫陽花、夾竹桃、芙蓉なども季節の色合いを示してくれます。また畑に植えた菜の花は学校のマスコット「なのこ」の象徴でもあります。

このきれいな「花と緑」を支えているエコ部（エコ・コミュニケーション部）は、昨年からは教室に花を一輪ずつ活けてくれています。

無機質な教室に一輪のお花の存在は絶大です。単に教室が明るくなるだけではなく、生きいきと血が通うように感じます。生徒たちの表情にもそれが表れている気がしています。花のおかげか、笑顔が増えました。また、花のおかげか人が集まります。もちろん、花のおかげかホッと癒される人もいます。

まずは、春を告げるチューリップで始まった一輪挿し。新学期の心配事をチューリップは静かに聞いていてくれました。気が滅入りそうな梅雨の季節には紫陽花が活けられました。難しい数学の問題を一緒に解いていたのかもしれない。9月には少し遅咲きのヒマワリが教室の皆に元気と笑顔を与えてくれました。次は秋の代表選手コスモス。花名のコスモスは、ギリシア語の「kosmos」（意味は、美しさ、調和、宇宙など）に由来します。コスモスの花は宇宙に続く秋空の清々しさを教室一杯に届けてくれました。

教室に花を活けてくれてありがとうございます。

